



桐花

大槌町立吉里吉里学園

小学部 通信 No14

令和5年11月9日

文責 藤井



吉里吉里学園小学部の校報「桐花」は右のQRコードを読むことによってカラー版をご覧いただくことができます。(大槌応援団サイトへ) →

東日本大震災津波被害について学ぶ

10月24日、25日、26日の3日間、4年生が吉里吉里地区における東日本大震災による津波被害とその当時の様子について、初日は吉里吉里学園PTA会長の芳賀新さん、2日目は公民館において館長の芳賀博典さん、神社の宮司藤本俊明さん、3日目は吉祥寺高橋住職さんにお話をさせていただきました。震災当時はまだ生まれていなかった4年生ですが、自分たちが住んでいる地域に起こった出来事や地域の人たちの復興に向けた取組を真剣に学ぶ機会となりました。



新さんからは、震災発生後から避難所開設、そして町の瓦礫撤去までの様子について当時の写真スライドを使いながら説明していただきました。子ども達に伝えたいことは、「津波の被害で死んではいけない。生き延びて周りの人の力になれる大人になってほしい。」という事でした。津波により避難しなかった人を助けに行って亡くなった人もいます。どこにいても自然の災害に遭う、しっかり避難して自分の命をまずは守ることが大事であるという事を教えていただきました。



公民館では当時の様子をインタビューしたNHK制作のVTRを見せていただきました。前日の新さんのお話を具体的な映像で再度確認することが出来、より震災当時の様子についての理解が深まりました。体育館の避難所で地域の人々が互いに助け合って声をかけて乗り切った様子についてお話ししていただき、「吉里吉里地区のみんながお互いに顔見知りで仲が良かったから乗り越えられた」普段から声をかけたり挨拶を交わしたりすることが大切であることを学びました。



吉祥寺では高橋さんの他、元消防団長芳賀さん、元大槌町長碓川さんにお話をさせていただきました。地震後の火災の恐ろしさやその対処法、現在の防潮堤の高さの意味等を説明していただきました。住職の大森さんからは今すぐにまた大きな災害があるかもしれない。大人が頑張っている姿を見て子ども達も自分達が役に立ちたいと考え行動した。普段家で過ごしている中でも自分にできることがあったら、行動することが大切である。という事を教えていただきました。

※大変お忙しい中子ども達に貴重なお話をさせていただいた皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

吉里吉里学園学校公開

11月1日（水）さわやかな秋空の下「令和4・5年度大槌町教育委員会指定 学校公開研究会」を開催し、沿岸南部教育事務所の皆様、大槌町教育委員会の皆様、釜石地区校長会の皆様、大槌学園の先生方、学校運営協議会委員の皆様、他市町村からの教員の方々、岩手大学の学生さんにご参会いただきました。

ふるさと科の公開として小学部では、3年生が「心の授業として、自分の心と体に向き合い方」について、5年生は「海の探求学習として吉里吉里の美しい海を守るために自分たちに何ができるか」を考える授業を参会者の皆様に観ていただきました。子ども達は緊張しながらも真剣な眼差しで課題に取り組んでいました。



～心の授業 研究会から～

目に見えない部分の認知や、精神を安定させるための取組として心の授業がふるさと科で実施されている。この授業を通して心の多様化に気づくことが出来る。心にも個性がありそれを受け入れることが大切な事。震災を機に大槌が取り組み大きな財産となっている。子ども達が授業を通して心が豊かになっており、純粋さと新鮮さを感じた。今後も子ども達にストレスマネジメントを身につけさせる大切な入り口として取り組んでいただきたい。



～海の探求学習 研究会から～

郷土愛を育てるために、自分たちのふる里の事を学び、知る事はリアリティがあり、自分事として考える良い学習である。子ども達がグループで考え相互に発表し合うことで、共通点、相違点についてしっかりと話し合っていた。地球の温暖化と海水温度の温暖化は同時に進行している。それを防ごうとして活動している大人もいるが、微力ながらも自分たちに何ができるか考えることは自分の生き方を考えることにもつながる大切な学習である。

釜石地区連合音楽会

11月7日（火）開催された「釜石・大槌地区連合音楽会」は、釜石市民ホール「TETTO」を会場として釜石・大槌の学校が一同に会し、お互いの学校の合唱や演奏を楽しみました。吉里吉里学園小学部は3年生～6年生が参加し、小中合同文化祭でも披露した合唱「村まつり まっかな秋 四国ばやし」を発表しました。



みんなで力をあわせて
すばらしい発表をして
くれました。↓

